

24 福島県女性「9条+24条」の会
〜つどい2025 会津開催〜

5/31(土)

今話題のドキュメンタリー映画

13:30~16:30 (開場 13:00)

教育と愛国 上映&監督のトーク

上映時間 107分

会場：会津若松市文化センター

※手話通訳、預かり保育あります。保育の申込みは5月10日まで。



2017年
第55期
文化庁
大賞

2018年
第10期
日本映画
優秀賞

教育と愛国

知ってほしい
教科書で「いま」何が起きているのかを

日本映画
ベストオブ
2022年
文化映画
ベスト1!

2022年
第65回
文化庁
大賞
受賞!

2022年
第96回
キネマ旬報
文化映画ベストテン
第1位

封切り2カ月半で3万人を動員!
フランス、アルゼンチン、イラク等でも上映され
異例の大ヒットとなっている。



予告動画 ↑



さいか ひさよ
育加 尚代さん

1965年宝塚市出身。西宮市在住。
1987年毎日放送入社。報道記者などを
経て2015年からドキュメンタリー担
当ディレクター。テレビ版『教育と愛
国—教科書でいま何が起きているのか』
ではギャラクシー賞テレビ部門大賞。
映画『教育と愛国』で初監督個人とし
て2018年度「放送ウーマン賞」受賞。
2023年日本外国特派員協会「報道の自
由賞」受賞。

参加費 1,000円
18才以下無料

「つどい2025」会津実行委員会
お問い合わせ・保育申し込み
TEL:090-7567-6588 (片岡)

後援：福島県女性団体連絡協議会 会津若松市、会津若松市教育委員会、福島民報社、福島民友新聞社、毎日新聞福島支局、朝日新聞福島総局、河北新報社、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしまFM、喜多方シティエフエム



ひとりの記者が見続けた“教育現場”に迫る危機

いま、政治と教育の距離がどんどん近くなっている。軍国主義へと流れた戦前の反省から、戦後の教育は政治と常に一線を画してきたが、昨今の流れは大きく変わりつつある。2006年に第一次安倍政権下で教育基本法が改正され、「愛国心」が戦後初めて盛り込まれた。以降「教育改革」「教育再生」の名のもとに、教科書検定制度が見えない力を増していく。「日本軍、慰安婦や沖縄戦を記述する教科書を採択した学校に押し寄せる大量の抗議ハガキ。政治介入ともいえる状況の中で繰り返される出版社と執筆者の攻防は、いま現在も続く。

本作は、歴史の記述をきっかけに倒産に追い込まれた大手教科書出版社の元編集者や、保守系の政治家が薦める教科書の執筆者などへのインタビュー、新しく採用が始まった教科書を使う学校や、慰安婦問題など加害の歴史を教える教師や研究する大学教授へのパッシング、さらには日本学術会議任命拒否問題など、大阪・毎日放送（MBS）で20年以上にわたって教育現場を取材してきた齊加尚代監督が、「教育と政治」の関係を見つめながら最新の教育事情を記録した。教科書は、教育はいつい誰のものなのか……。



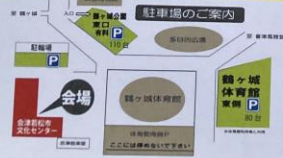
2017年度ギャラクシー賞・大賞を受賞した話題作が、最新取材を加えついに映画化!

2017年にMBSで放送された番組「映像'17教育と愛国～教科書でいま何が起きているのか～」は、放送直後から大きな話題を呼び、その年のギャラクシー賞テレビ部門大賞、「地方の時代」映像祭では優秀賞を受賞した。2019年に番組内容と取材ノートをまとめ書籍化（岩波書店刊）、2020年には座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバルで上映もされた。



これだけ長く注目され続けるのは、多くの人にとって教科書問題が身近であり、またこれからの社会を考えるうえで「教育と政治」の関係が重要であるという証左ではないだろうか。いくつもの壁にぶち当たりながらも追加取材と再構成を敢行し、語りは俳優・井浦新が担当した。いまあらたに誕生した映画版『教育と愛国』がいよいよ劇場公開となる。

監督 | 齊加尚代 語り | 井浦新 プロデューサー | 澤田隆三 / 奥田徳幸 撮影 | 北川哲也 編集 | 新子博行 録音・照明 | 小宮かづき 製作 | 映画「教育と愛国」製作委員会 製作協力・宣伝 | 板井寛子 宣伝アドバイザー | 加瀬修一 (control) 宣伝美術 | 迫川恵子 配給・宣伝 | きろくびと 2022年/日本/107分/カラー/DCP www.mbs.jp/kyoiku-aikoku



「9条+24条」の会
「つどい2025」会津実行委員会
事務局 TEL:090-7567-6588(片岡)